

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 磯村 聡子

〔題名〕

精神障害者が地域で生活し続けるために住民との近隣交流を促進する地域ケア

〔要旨〕

精神障害者と住民との摩擦は近隣苦情として顕在化する。しかし、近隣住民との日常的な交流は、地域の許容性を増す。本研究は、精神障害者が地域で生活し続けるための住民との近隣交流への促進する地域ケアを明らかにする事を目的とした。

文献検討の結果、1990年後半から長期入院精神障害者への退院支援に対する多職種による取り組みが報告として認められた。住民苦情事例では、精神症状に対する住民の不安が認められ、精神障害を理解し、不安を抱える住民へ自治会長や民生員が状況を説明していた。また、相互交流により精神障害者の行為に対する不安が緩和されていた。

精神障害者の近隣交流項目(55項目)の因子分析を行った結果、精神障害者の近隣交流は、近隣住民との気軽な付き合いや頼み事等の日常的な「援助」、近隣住民と食べ物、情報、生活の娯楽、見聞の「共有」、自治会活動への参加等、地域との「協調」、近隣住民に対する「関心」、大切に思う相手への「感謝」因子が抽出され、信頼性が確認された。住民(n=312)の近隣交流と比較した結果、精神障害者(n=131)の近隣交流は、近隣住民の顔や名前への「関心」という認知レベルであったが、協調性のある「行動」まで引き上げるはたらきかけが地域ケアの課題と考えられた。さらに、精神障害者の近隣交流の特徴を地域組織との関係から検討した結果、民生委員に相談する精神障害者の方がしない者に比べて近隣交流が多く、民生委員との接点は近隣交流を広げる可能性がある。自治会への加入率は、住民に比べて精神障害者の方が有意に低かったが、地域特性により自治会組織のあり方や住居の形態の影響を受けると考えられ、自治会へ入会している精神障害者は近隣交流を発展させると考えられた。

精神保健に従事する多職種が精神障害者と自治会や民生委員との関係構築、地域組織が精神障害者を見守る体制づくりは、精神障害者が地域で生活し続けるために有効な地域ケアと考える。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1457 号	氏 名	磯 村 聰 子
論文審査担当者	主査教授	田 中 満 由 美	
	副査教授	堤 雅 恵	
	副査教授	寺 田 孝 恵	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
精神障害者が地域で生活し続けるために住民との近隣交流を促進する地域ケア			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
精神障害者の近隣交流の特徴-地域組織との関係から-			
掲載雑誌名 リハビリテーション連携科学			
第 16 巻 第 2 号 P. 136 ~ 146 (2015 年 12 月 掲載)			
(論文審査の要旨)			
【目的】精神障害者が地域で生活し続けるため住民との近隣交流を促進する地域ケアを明らかにすること。			
【方法】研究デザインは、無記名自記式質問紙を用いた横断研究とした。調査項目は、近隣交流 55 項目とし、項目は 4 件法とした。地域組織との関係は「自治会の入会」「民生委員への相談」を尋ねた。			
調査 1：精神科入院経験を 1 回以上持つ精神障害者を対象に近隣交流 55 項目について調査した。			
調査 2：住民を対象に、近隣交流 55 項目から精神科入院歴を除外した項目について調査した。			
【結果】			
精神障害者の近隣交流は因子分析の結果「援助」「共有」「協調」「関心」「感謝」の 5 因子が抽出された。Chronbach's α 係数は、5 因子全てで 0.8 以上が得られた。精神障害者の近隣交流得点平均値は、「援助」 1.51 ± 0.66 、「共有」 1.77 ± 0.80 、「協調」 2.06 ± 0.86 、「関心」 2.64 ± 1.20 、「感謝」 1.61 ± 1.03 であった。5 因子のうち、「感謝」を除く「援助」「共有」「協調」「関心」の 4 因子で住民が有意に高かった。(p<0.001)。			
精神障害者の自治会加入率は 58.8%で住民より有意に低かった (p<0.001)。民生委員への相談は 15.3%であった。精神障害者の自治会加入と近隣交流得点の平均値は、5 因子全てで、自治会に入会している精神障害者が入会していない者に比べて高く、「感謝」を除く「援助」「共有」「協調」「関心」で有意差を認めた (p<0.001)。また、5 因子全てにおいて、民生委員に相談する精神障害者の近隣交流得点の平均値が高く、「援助」「関心」因子で有意差が認められた (p<0.05)。			
本研究は研究が困難であるとされる精神障害者に焦点をあてて研究し、精神障害者が安定した地域生活を送るために精神障害者の近隣交流について検討した結果、近隣との交流への提言および地域ケアのあり方の展望について言及した。			
また、この研究は地域看護、精神看護の発展に貢献するものと思われる。よって、博士後期課程の学位論文として価値あるものと認めた。			

備考 審査の要旨は 800 字以内とすること。